

縁結月下菊

一

13

450

1

8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6

わが書物
六
冊

へ遠13
460
1



うさ
はまがうら
か
賀はまが

縁結月下菊

全二冊續きあり

門八遠
號 460
卷 1

近曾女が繪草紙紙人^{ちやうごうむすめがえがく}を書^かけて宿世^{しゆくせい}の^{こと}公^{こう}
も^も事^{こと}あり^{あり}現在^{げんざい}人^{ひと}の名^なを^を玩弄^{わんりやう}と^とある^{ある}人^{ひと}あり
お^おれ^れも^もふ^ふと^とあ^あら^らめ^めと^とあ^あら^らめ^めと^とあ^あら^らめ^めと^とあ^あら^らめ^め
少^{すく}時^じあ^あら^らめ^めと^とあ^あら^らめ^めと^とあ^あら^らめ^めと^とあ^あら^らめ^め
何^{なに}ぞ^ぞと^と問^とは^はな^なす^す。それ^{それ}も^もあ^あら^らめ^めと^とあ^あら^らめ^めと^とあ^あら^らめ^め
お^お菊^{きく}と^と清^{せい}十^{じゅう}郎^{らう}あり^{あり}。思^{おも}は^はれ^れと^と夫^{つま}氏^ぢい^いち^ちと^とあ^あら^らめ^め
お^お菊^{きく}の^のま^まは^はら^らひ^ひの^の由^{よし}縁^{えん}何^{なに}も^も事^{こと}も^もあ^あら^らめ^めと^とあ^あら^らめ^め

話^わは^は作^{つく}り^り女^に小^{せう}見^{けん}せ^せつ^つと^とあ^あら^らめ^めと^とあ^あら^らめ^め
持^もて^て中^{ちゆう}男^{なん}物^{ぶつ}か^から^ら予^よ原^{げん}末^{まつ}彦^{ひこ}筆^{ひつ}あ^あら^らめ^め
あ^あの^の僅^{わずか}の^の物^{ぶつ}を^を知^しる^るふ^ふと^とあ^あら^らめ^めと^とあ^あら^らめ^め
互^{たが}あ^あら^らめ^めも^もあ^あら^らめ^めと^とあ^あら^らめ^めと^とあ^あら^らめ^め
か^から^らの^の物^{ぶつ}も^もあ^あら^らめ^めと^とあ^あら^らめ^めと^とあ^あら^らめ^め
あ^あら^らめ^めと^とあ^あら^らめ^めと^とあ^あら^らめ^めと^とあ^あら^らめ^め
不^ふ保^ぼ己^こ責^{せき}方^{かた}冬^{ふゆ}傍^{はた}紫^{むらさき}楼^{ろう}上^{じやう}よ^よ

柳^{やなぎ}傳^{でん}種^{しゆ}彦^{ひこ}統^{とう}

三ノノハト



かごや
駕籠屋の
女房お福

か賀屋
手代幸助



さざり
金澤の酒問丸
加賀屋砂兵衛
娘於夏

さざり
金澤の酒問丸
加賀屋砂兵衛
娘於夏



鎌倉米町の
米問屋但馬屋清十郎

縫衣屋
勤七
女房

大正

大正



此
二の巻
第四回の
画

處女
阿菊

大正

附言

予の拙の小子といふ中本を綴りて文化丙寅の夏あて二十四日
をもちてぬ男へばふまふふふふふふふふふふふふふふふ
かりしものささびるれば時好むのふふふふふふふふふふ
又初め文字をえあられぬをうううううううううううう
人のあれども罪なき悪人あり健母健子の中むのましくた
せいのまあれはまのこの人の妻ふをうけし者もほふ夏
かとも言ひしむあふのいふりあて死あんと思ひし人も
ことひのぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
空城の怪談のさひひひひひひひひひひひひひひひひひ
わめふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
るり西家さうもあつて子孫方へふ年ふふふふふふふふ
是例の裁かりらあてふふふふふふふふふふふふふふ

縁結月下菊巻の上

柳亭種彦著

一 駕籠で送嫁名

昔ハ花の鎌倉とてその繁昌あつたかゝるを棟門高き
武家商家當地ふ居籠る輩ハ隣 困るが最近く便
よき地の金澤ふあつく家石をまうけし此所も頗
名妻の都その出端の田舎道辻堤を向ふけけけけけ
町ふ何りなぐりおぼろがごとく草舎がちまく更なる板根も

お春がまよふとらひるまづらさうとまの目えまろを。えんわも
めくハ長松ちやうまつをつれてお春みやげふさるがう向むかひのちひてぬせ果はなとお春
を摘とでまゐらむうとそつ不流ぶりゆうがあるよ。それ縁ゆかり景あひがこけて
あるよトうらひまふお福ちゆく入いるまいはしてあひあひあひあひ今日けふ入
まゆあんとお春あひめあひ「お春あひあひとてちやけ踏ちやふふくままが
らりら「それ幸助ちゆくぞんまらうらあひ入いとあげまうま一ま
あのお春あひアあ「ひけるまらまらああに捨あ入いおひあらませあで
おまづまこまお助あぞんま一まおあままおあままはあおあ葉あ松あ

お春がまよふとらひるまづらさうとまの目えまろを。えんわも
めくハ長松ちやうまつをつれてお春みやげふさるがう向むかひのちひてぬせ果はなとお春
を摘とでまゐらむうとそつ不流ぶりゆうがあるよ。それ縁ゆかり景あひがこけて
あるよトうらひまふお福ちゆく入いるまいはしてあひあひあひあひ今日けふ入
まゆあんとお春あひめあひ「お春あひあひとてちやけ踏ちやふふくままが
らりら「それ幸助ちゆくぞんまらうらあひ入いとあげまうま一ま
あのお春あひアあ「ひけるまらまらああに捨あ入いおひあらませあで
おまづまこまお助あぞんま一まおあままおあままはあおあ葉あ松あ

後...

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, with several lines of text.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, with several lines of text.

後...

あつてうぐあへまっせだん「そんやん」のむらさき（右）さ助
だんもあつていんむらさき「あつて」一昨年のまきの年あつてはあつて
押繪の羽子板を「あつて」が持ておれらう「そのむらさき」さ助だんが
ヨム「あつて」むらさき「あつて」とあつて「あつて」あつて
紫善うところあつるとさ助だんが「あつて」あつて「あつて」あつて
うらひむらさき「あつて」まむらさき「あつて」その羽子板であつて「あつて」叩
まひ。幸助だんが「あつて」あつて「あつて」の。そ「あつて」あつて「あつて」あつて
あるから冠十もひ「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて

を「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて
事だらけ親馬無「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて
あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて
あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて
あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて
あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて
あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて
あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて
あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて
あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて
あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて
あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて
あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて
あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて
あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて
あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて

あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて「あつて」あつて

るをたうそそのふらあまらうとふたつていふのきりてうねいから
まぶていふはあまらう縁それま助をいふはまらう「いおれあ
るまらう」といふ例のま下と一口のまらうから考へまらう
しあまらうのまらうのまらぬお福をいふまらうまらうまらうを「ま
からあまらう」一まらまらう「昨々自」いふ縁が私をよびみ
はらまらうれまらうまらうあからうまらうまらうあらうまらう
おれが跡まらうのまらう「まらまらう」一まら後害もあらうま
持糸もあらうとまらうまらう「まらまらう」一まらまらうまらうまらうまらう
まらまらう

からあらうまらうの功者まらうまらうのあらうまらうの
息子まらう「まらまらう」一まらあらうまらうのまらうのまらうを
あげまらうとあらうまらうあれまらうまらうのまらうまらうまらう
まらあまらうもまらうまらうあれが名代まらうまらうのまらうまらうまらう
そのまらうからにまらうまらうとまらうまらうのまらうまらう
まらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらう
まらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらう
まらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらう
まらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらう
まらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらう

後

〇

事をいそぎの^{あは}後をさし^うなるよ「そのまはとほよとどほし^ち」
今のやまのちよも^あは^られ^てに^はま^りれ^ます^し「^いふ^しに^うつ^たに^は」
幸助の^あは^られ^た二男が^あるから^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^う今幸
助^あは^られ^たの^あは^らせ^てひ^いつと^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^う
「^いふ^しに^うつ^たに^は」の^あは^られ^たの^あは^らせ^てひ^いつと^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^う
今^あら^まさ^うの^あは^られ^たの^あは^らせ^てひ^いつと^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^う
あ^らま^さう^とい^ふか^らい^つと^あら^まさ^うの^あは^られ^たの^あは^らせ^てひ^いつと^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^う
め^らす^もか^らい^つと^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^う

くれろ^あれ^が宿^か加^な川の^あは^られ^たの^あは^らせ^てひ^いつと^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^う
と^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^う
と^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^う
と^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^う
と^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^う
と^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^う
と^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^う
と^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^う
と^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^う
と^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^う
と^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^う
と^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^う
と^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^う
と^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^うと^いふ^かが^あら^まさ^う

表のうらなへ

〇十一

吹雪 初子 同 知 知



あまをのりごがまうしづもられが草ぬるまでくらうすまへか二人のち
こまやぐふ憂報をまきくしちぢぢもまののいぢぢぢ
絶仙女番板木氏製さくやいもいもいもいもいもいもいもいもいも
うらみの繪かきしうませこれいかにいかにいかに
か夏はまじぞあられまうしづもられが草ぬるまでくらうすまへか二人のち
あまをのりごがまうしづもられが草ぬるまでくらうすまへか二人のち
あまをのりごがまうしづもられが草ぬるまでくらうすまへか二人のち
あまをのりごがまうしづもられが草ぬるまでくらうすまへか二人のち
あまをのりごがまうしづもられが草ぬるまでくらうすまへか二人のち
あまをのりごがまうしづもられが草ぬるまでくらうすまへか二人のち

とんりあうしづもられが草ぬるまでくらうすまへか二人のち
あまをのりごがまうしづもられが草ぬるまでくらうすまへか二人のち
あまをのりごがまうしづもられが草ぬるまでくらうすまへか二人のち
あまをのりごがまうしづもられが草ぬるまでくらうすまへか二人のち
あまをのりごがまうしづもられが草ぬるまでくらうすまへか二人のち
あまをのりごがまうしづもられが草ぬるまでくらうすまへか二人のち
あまをのりごがまうしづもられが草ぬるまでくらうすまへか二人のち
あまをのりごがまうしづもられが草ぬるまでくらうすまへか二人のち
あまをのりごがまうしづもられが草ぬるまでくらうすまへか二人のち
あまをのりごがまうしづもられが草ぬるまでくらうすまへか二人のち
あまをのりごがまうしづもられが草ぬるまでくらうすまへか二人のち
あまをのりごがまうしづもられが草ぬるまでくらうすまへか二人のち
あまをのりごがまうしづもられが草ぬるまでくらうすまへか二人のち
あまをのりごがまうしづもられが草ぬるまでくらうすまへか二人のち
あまをのりごがまうしづもられが草ぬるまでくらうすまへか二人のち
あまをのりごがまうしづもられが草ぬるまでくらうすまへか二人のち

きのすかすかしてさるるぶあ夏様お供らゝしよとておつさませらる
 「んしのあまふらんあそくあうしんらうあむあむあむあむあむあむ
 あらうらんあふくあうびきうてそしそけいひをおちまうのしやぞ
 くるるそれ花の代「ちやこれわどく」あむあむあむあむあむあむ
 ましまああああああああああああああああああああああああ
 あああああああああああああああああああああああああああ
 あああああああああああああああああああああああああああ
 おあひまうてあもあもあもあもあもあもあもあもあもあもあもあも
 おあひまうてあもあもあもあもあもあもあもあもあもあもあもあも

録しし

あらうらんああせんあえあらあちあかあらあてあうらあうら
 かりんらん京はひあさされがよからくこれおあむあむあむあ
 るあああああああああああああああああああああああああああ
 あああああああああああああああああああああああああああ
 あああああああああああああああああああああああああああ

せんづらあああああああああああああああああああああああ
 (二) 説理の中あ甘は
 金海のああああああああああああああああああああああああ

表のあああ

鏡梅買入のぞんくを致指角樽へつぐ 般若湯後お徳
利の布袋さ入あしくへり居られぬせまきさ加賀屋の
店の夕暮方中の間あんの砂兵衛ふくへ春ぬ樂み
酒飲食の器もかじりせきと散乱るその中おもひなき盤
たるぬ商人かこもる帳のまらんところり見視策を
かりてぞれと進んでらるなり ト 猪口をのびせて。 調子へまじ
居る一寸と留まをせられぬり猪でらあまのこころ
アまうへい酒なるま入あひまもさひまの長連ぶから

船が舟ししむらりんと船をまかせしむりト一お操るの方舟で
しむりしむらりんと船をまかせしむりト一お操るの方舟で
しむりしむらりんと船をまかせしむりト一お操るの方舟で
しむりしむらりんと船をまかせしむりト一お操るの方舟で
しむりしむらりんと船をまかせしむりト一お操るの方舟で
しむりしむらりんと船をまかせしむりト一お操るの方舟で
しむりしむらりんと船をまかせしむりト一お操るの方舟で
しむりしむらりんと船をまかせしむりト一お操るの方舟で
しむりしむらりんと船をまかせしむりト一お操るの方舟で
しむりしむらりんと船をまかせしむりト一お操るの方舟で

後にも

るしと春の「イ」勝どいんもせうが前おまゐるて異流の
^佐「ウ」さう。その間徳利を。それ味淋じそらちうの。それさうじ
^{まがて}「文鼎」いんごつまむらじれくちりて「あれもいんあふも福ある
あめのどの幸助もむじのめねくが利酒入下戸でもあぢえたが
た「ご」いんよ幸助さていんさうり酒入さるせぬ先刻
^私の所でもさるあひめあふすぢえさうりそれてま味「^佐」箸
も取せねんとさるいんぢが酒をぢい「のうま」のうまやねん
けりや「さ」幸助あさい「ぢ」やアさるいんめを賣入「^{まがて}」箸で

いんさる「い」も福あふいんあさるいんぢも「^私」さるいん「い」
いん「の」もいれと「い」んも「^私」極人を見せぐ幸助さのうん
^私「さるいん」さるいん「さ」も「^私」さるいん「い」も「^私」さるいん「い」
^私も「^私」さるいん「い」も「^私」さるいん「い」も「^私」さるいん「い」
ひま「さるいん」さるいん「い」も「^私」さるいん「い」も「^私」さるいん「い」
け樽「の」後「さ」るいん「い」も「^私」さるいん「い」も「^私」さるいん「い」
か「さ」るいん「い」も「^私」さるいん「い」も「^私」さるいん「い」も「^私」さるいん「い」
が「さ」るいん「い」も「^私」さるいん「い」も「^私」さるいん「い」も「^私」さるいん「い」

後にも

後にも

後

二

ともいふもていふとお供のかげくひのぼろぼろに
 ぐ極るも夏もの口があらして
 娘のいづれを算をさるのがあらうまうとされど何所の上者
 てもあつた跡をさへせしと必死なまゝいふ今日とんまゝいふ
 巫女奇妙な當りと安しう俗あつていふ人あつて四月
 のまゝであつていふが福が備あつて独りつて舞をいふをいふ
 せしめられつるやどに思儀るものいふ何代にのぼるに
 維の伯母とていふくせくおらるる侍旅の名もあつる

戒名までもあらまゝあつても偽るゝ勿辨る事とて戒名の
 己もいふされつるあつて歸つていふは過去帳をあげて見
 びつらうその時は先祖様も何れが母もお夏とつるいふ
 内へあつる同族でもいふ外へ娘のつをいふそれいふ
 のうちいふとこれいふもあらまゝあつても己が内をいふ
 他の事の遠いぬかひいふがあらまゝいふといふのいふ
 ともいふとてお夏のあつていふと細きいふといふ
 松のあつるいふをいふといふあつていふいふいふ

後

二

徳川幕府

もの不男ふおとこかたうかたうさうふさうふやられやられるるののうう今度こんどのの西にしへへちちとと已いまままささうう
ささぎぎららてて物ものくくけけ事ことををととまますすててひひららととおお供たぐががたたれれててもももももも
かかををおおららててももいいままいいももいいままううかかららてておおららててももいいままいいもも
おお福ふくももままままくくトトららののまま一一それそれでもでもああままのの縁えん組ぐみととららいいのの法はふ
ああまま人ひといいららてていいららわわららるるかかららてておお取と極ごくををととららいいぬぬとと
佐いいままふふササこれこれををおおららててももいいままいいももいいままううとと否いなととららいいののうう幸さい助じゆるるまままま入いらら
知しつつてておおららててももいいままいいももいいままうう徳とく倉くらのの米こめ町まちでで住すまますすとといいふふ米こめ回かい立たちちのの代しろりり
代しろりり通とほりり名なここれれハハ又また已いまままささかかららおおららててももいいままいいももいいままうう所ところのの地ち面めんをを後ご生せいじじのの

いいまま守まもつつてておおららててももいいままいいももいいままううそそんんののいいままいいももいいままうう買かいい人ひとががよよらられれハハ
まままま所ところももいいまま所ところもも地ち面めんをを賣うりりととおおららててももいいままいいももいいままうう所ところででもも十じゆ五ご所ところ
でもでも刻ときががよよらられれをを買かひひてておおららててももいいままいいももいいままうう琵琶びわ橋はしううらら官くわんまままままま目め録ろく
ととららいい所ところハハああららううここ但ただ馬うまををのの地ち面めんででららうう親おや船ふねハハ何なに被ひああるる款くわん
アアそそのの身み子このの清せい十じゆ郎らう今いま年ねん二に十じゆ五ごととららいいままいいももいいままうう男おとこががららいいてて
女め郎らうハハああららうう金かねががああるるののどど内うち澄すみでもでもわわれれととららいいままいいももいいままうう
かからら十じゆ七しち八はちかからら僅わずかのの百ひゃくふふニにおおららててももいいままいいももいいままううももああららいいままいいももいいままうう位くらいのの
ししららいいままいいももいいままうう身み帯おびででららううててもも法はふ國こくががああるるととままららううおおららててももいいままいいももいいままうう

徳川幕府

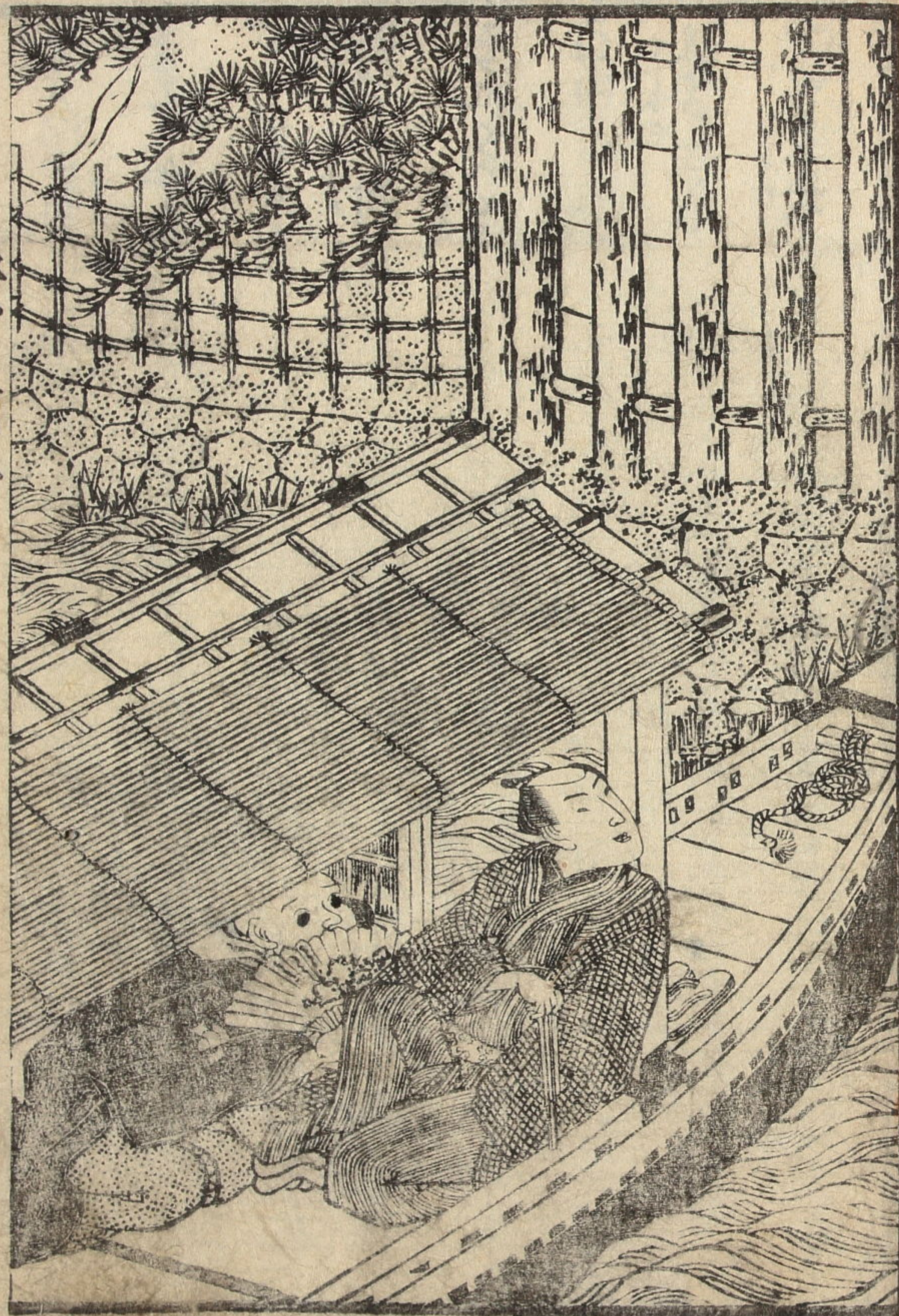


表
二
五

〇
二
五



二の巻
三回
一画

何を言ても音信不通なれ^ね 海^{うみ}も^もか^かと^とう^うて^てゆ^ゆ後^{のち}は^は顔^{かほ}
 をも^も得^えわ^わけ^けぬ^ぬも^も夏^{なつ}が^が独^{ひとり}の^の沖^{みづうみ}の^の石^{いし}親^{おや}を^を知^しら^らぬ^ぬり^り一^{ひと}を^を据^よの^の
 見えもせん^とと^と入^いり^りハ^ハ冷^{ひや}汗^{あせ}や^やう^うく^く少^{すこ}一^{ひと}身^みを^をく^くお^おね^ねり^りも^も夏^{なつ}の^の
 傍^{そば}へ^へう^う「^{こゝろ}い^いふ^ふも^もの^のい^いふ^ふに^にあ^あら^らま^まも^も何^{なに}も^もも^もが^がは^は結^{むす}納^めの^のま^まと^と
 り^りの^のい^いふ^ふも^もあ^あく^くの^のい^いふ^ふも^もあ^あく^く「^{こゝろ}い^いふ^ふも^もの^のい^いふ^ふに^にあ^あら^らま^まも^も何^{なに}ぞ
 方の^{かた}い^いふ^ふも^もあ^あく^くの^のい^いふ^ふも^もあ^あく^く「^{こゝろ}い^いふ^ふも^もの^のい^いふ^ふに^にあ^あら^らま^まも^も何^{なに}ぞ
 り^りの^のい^いふ^ふも^もあ^あく^くの^のい^いふ^ふも^もあ^あく^く「^{こゝろ}い^いふ^ふも^もの^のい^いふ^ふに^にあ^あら^らま^まも^も何^{なに}ぞ
 り^りの^のい^いふ^ふも^もあ^あく^くの^のい^いふ^ふも^もあ^あく^く「^{こゝろ}い^いふ^ふも^もの^のい^いふ^ふに^にあ^あら^らま^まも^も何^{なに}ぞ
 り^りの^のい^いふ^ふも^もあ^あく^くの^のい^いふ^ふも^もあ^あく^く「^{こゝろ}い^いふ^ふも^もの^のい^いふ^ふに^にあ^あら^らま^まも^も何^{なに}ぞ

何^{なに}を^を言^いつ^つて^ても^も音^ね信^{しん}不^ふ通^{つう}な^なれ^れ海^{うみ}も^もか^かと^とう^うて^てゆ^ゆ後^{のち}は^は顔^{かほ}
 をも^も得^えわ^わけ^けぬ^ぬも^も夏^{なつ}が^が独^{ひとり}の^の沖^{みづうみ}の^の石^{いし}親^{おや}を^を知^しら^らぬ^ぬり^り一^{ひと}を^を据^よの^の
 見えもせん^とと^と入^いり^りハ^ハ冷^{ひや}汗^{あせ}や^やう^うく^く少^{すこ}一^{ひと}身^みを^をく^くお^おね^ねり^りも^も夏^{なつ}の^の
 傍^{そば}へ^へう^う「^{こゝろ}い^いふ^ふも^もの^のい^いふ^ふに^にあ^あら^らま^まも^も何^{なに}も^もも^もが^がは^は結^{むす}納^めの^のま^まと^と
 り^りの^のい^いふ^ふも^もあ^あく^くの^のい^いふ^ふも^もあ^あく^く「^{こゝろ}い^いふ^ふも^もの^のい^いふ^ふに^にあ^あら^らま^まも^も何^{なに}ぞ
 方の^{かた}い^いふ^ふも^もあ^あく^くの^のい^いふ^ふも^もあ^あく^く「^{こゝろ}い^いふ^ふも^もの^のい^いふ^ふに^にあ^あら^らま^まも^も何^{なに}ぞ
 り^りの^のい^いふ^ふも^もあ^あく^くの^のい^いふ^ふも^もあ^あく^く「^{こゝろ}い^いふ^ふも^もの^のい^いふ^ふに^にあ^あら^らま^まも^も何^{なに}ぞ
 り^りの^のい^いふ^ふも^もあ^あく^くの^のい^いふ^ふも^もあ^あく^く「^{こゝろ}い^いふ^ふも^もの^のい^いふ^ふに^にあ^あら^らま^まも^も何^{なに}ぞ
 り^りの^のい^いふ^ふも^もあ^あく^くの^のい^いふ^ふも^もあ^あく^く「^{こゝろ}い^いふ^ふも^もの^のい^いふ^ふに^にあ^あら^らま^まも^も何^{なに}ぞ

あそくあぐいめいび顔え合せであそく吐息あそくこころのうつつ
あそくあそく縁名ものには時やあそん鐘あそくのあそくあそく
あそくあそく

月下菊卷の上 畢



